

2008年8月23日、当クリニックにて第7回・名古屋 Psycho Social Rehabilitation 研究会が行われました。医師・精神保健福祉士・看護師・作業療法士・心理士を含め、約30名の参加がありました。

## いま、精神科クリニックの統合失調症治療があぶない

—CP 本間貴宣より—

今回は、いま、精神科クリニックが抱えている問題3点を取り上げました。

### ① 服薬アドヒアランスがあぶない

近年、コンプライアンスに変わる新たな概念としてアドヒアランスが注目されています。これまでのように治療者との約束を、ただ患者さんは守るだけではなくより積極的に治療に参加していくことが治療上も有効であると考えられています。今回は当院で実施したアンケートの結果をもとに「医者だけの自己満足ではなく、患者さんの声が治療者にしっかりと届いているのか？」ということを議論・検討しました。アンケート結果は、医療側と患者さんとのズレを示すものであり、今以上に副作用や性機能障害など問題になりにくいものにも注意して行く必要性が強調されました。

### ② 促進支援事業があぶない

2006年から全国で取り組まれている「退院促進支援事業」について現状確認と今後の問題点の抽出を行いました。退院促進支援事業とは2015年までの10年間で全国の精神病院の社会的入院患者75900人を退院させ、社会で受け入れていく取り組みです。

- ・ 行政の7割が「目標達成は厳しい」との判断（2003 毎日新聞全国調査）  
→スタート前から多くの不安を抱えた事業。
- ・ H18年、H20年の診療報酬改定  
→長期入院者は病院経営上もますます望ましくない。
- ・ 2006年度は26都道府県のみでの実施ではあるがわずか250人  
→進んでいない。目標とは程遠い。
- ・ 75900人の内70%が55歳以上（厚労省 患者調査 2005）  
→入院患者の高齢化
- ・ 全国で退院している患者38万人のうち、入院期間が1年未満の人は87%  
→1年以上の長期入院者の退院はあまり進んでいない。
- ・ 2000年からの大阪での先行例から学ぶと、支援対象者97名の内52%が退院達成。  
しかし、問題も多く退院への阻害要因もいくつかみられた（大阪退院促進事業報告書より）  
本人の阻害要因は「不安が強い」「現実検討の悪さ」「病状の不安定さ」など  
家族の阻害要因は「家族のサポート機能の低さ」「家族が退院に反対」など  
地域の阻害要因は「住居サービスの不足」「マンパワーの不足」などであった。

また、今後退院に向けて望まれる支援としては

「服薬指導」「外泊指導」「社会生活技術の取得」など

しかし、実際に行われた支援は、全支援中

「院内での作業療法」が46.7%

「特にやっていない」も驚くことに45%も！！

→ある程度成果は見られるが、予算やマンパワーの問題で退院に必要な支援ができていない。

- ・ 愛知県の退院促進事業は今年度より、県・市それぞれで事業を行っている。

県はH24年度末までに1000人退院を目標。昨年度の実績は全県で12～13人。

事業委託先は以下の計6ヶ所

「山中」、「ひろばわっぱる」、「キャンパス」、「やすらぎ」、「サンクラブ」、「さぎなみ」  
市はH24年度末までに250人退院を目標。

事業委託先は 「親愛の郷」 の1ヶ所

→愛知県もまだ始まって間もないが、結果は出ていない。

→今後、名古屋市はH24年度までに居住系サービス（グループホームなど）の利用者数をH17年の3倍と見込んでいる。

### <退院促進支援事業の問題>

- ① 事業の様子が見えにくい
- ② 住居サービスが不足
- ③ 入院患者の高齢化
- ④ 院内での退院訓練が進んでいない
- ⑤ 退院準備が不十分な患者が退院しかねない

### ③ 精神科診療所があぶない

診療報酬改定・退院促進支援事業で長期入院者が退院する

↓

どこまで地域で受け入れられるのか？

↓

診療所の数は全国規模で急増中。名古屋も著しい。

↓

地域での統合失調症治療を診療所が病院から引き継げるのか？

↓

名古屋の現状では厳しい。なぜか？

病診連携の不十分さ、うつ病・人格障害者の増加による多忙さ、統合失調症をみる所が少ない。

↓

しかし、名古屋の診療所は飽和状態。このまま患者さんが増え続けるとも考えにくい。

これだけ多くの診療所が、全て経営が上手くいくはずがない

↓

どうする？

### <精神科診療所に今後望まれること>

- 機能分化による診診連携を強化し、統合失調症の治療・訓練を地域でサポートすべき
- 病院は急性期治療、診療所は再発予防・生活支援とそれぞれの役割を再確認(病

診連携)

- 多くの診療所をもつ名古屋は、それだけ多くの患者さんを地域でサポートできる可能性を持つ